

実験の前に…基本Cortex-A8プロセッサ搭載BeagleBone Black入門

永原 柊

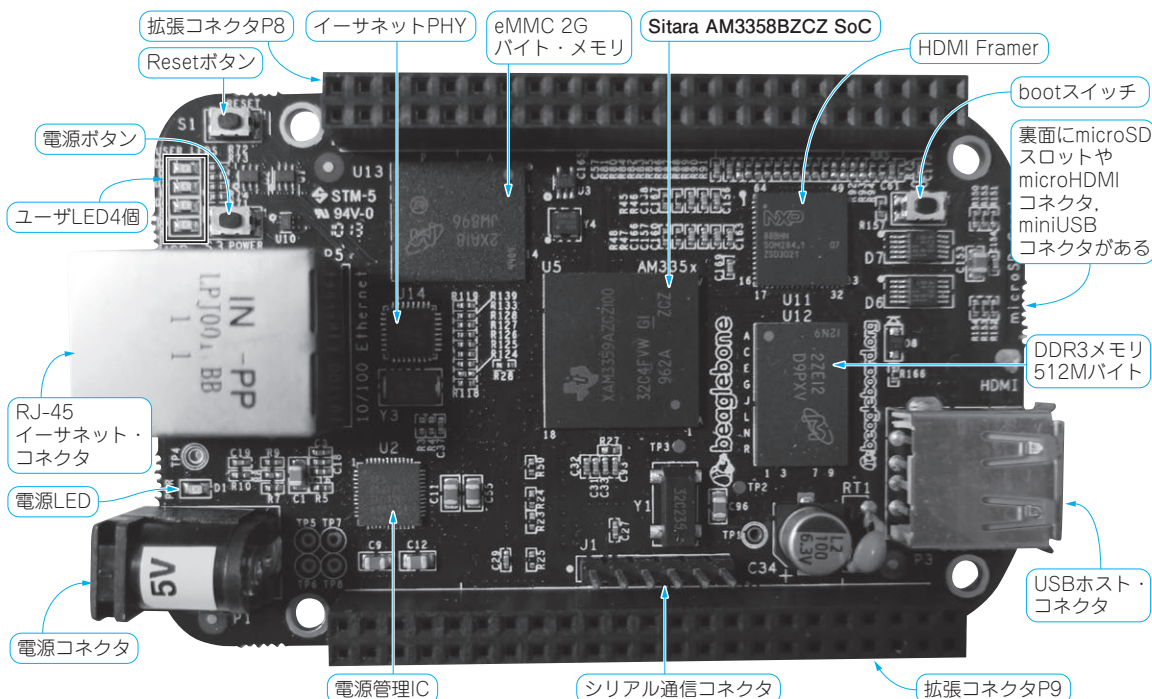


写真1 Cortex-A8プロセッサSitara AM3358BZCZ搭載ボードBeagleBone Black

Raspberry PiやBeagleBone Blackといった安価なボードを容易に入手できるようになりました。5,000円程度なのにずいぶん高性能です。しかもボード単体でOSとしてLinuxを使えます。二十数年前ならワークステーションと呼ばれた数百万円のコンピュータに匹敵する能力です。このようなボードの大部分にはARM Cortex-Aプロセッサが使われています。

第2部では、Cortex-A8搭載SitaraプロセッサAM3358BZCZ(テキサス・インスツルメンツ)を使ったボードであるBeagleBone Blackを使って、手はじめにLinuxによるハード制御に挑戦してみます。

基本Cortex-A8搭載の定番ボード BeagleBone Black

BeagleBone Blackは、beagleboard.orgにより開発されたボードです。基本コアARM Cortex-A8を搭載したプロセッサAM3358BZCZ(テキサス・インスツルメンツ)が用いられています。ボード単体でLinuxが動作します。

本ボードは秋月電子通商やアマゾンなどのほか、Digi-KeyやRSコンポーネンツなどからも購入できます。値段は5,000円ほどです。

2014年5月の時点では、Rev.Cへのバージョンアップのためだと思うのですが、一時的に在庫切れになっているようです。